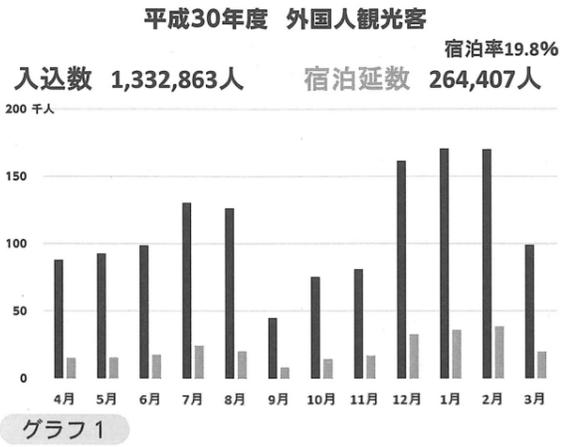


月ごとの入込状況からは、7月、2月にピークがあり、特に冬場の来樽が多いことがわかります。(グラフ1)

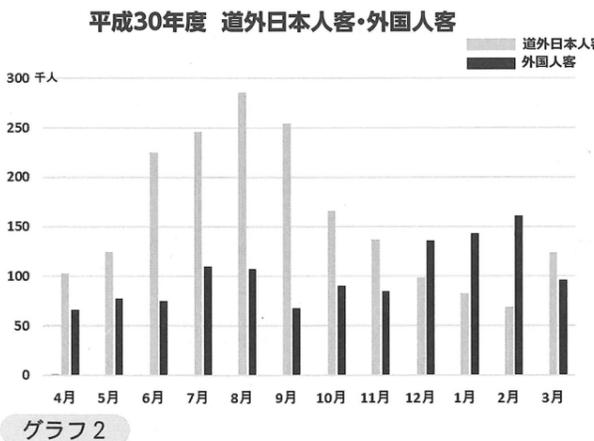
市は月ごとの観光客入込総数を道内客と道外客にわけて公表していますが、今回の調査により、(表2)のように、道外客を日本人と外国人に分けることができました。これをグラフにしてみると、冬期の道外客は日本人よりも外国人の方が多く来樽しており、冬期の小樽観光は外国人に支えられていることがわかります。(グラフ2)



グラフ1

JR小樽駅をはじめ市内観光施設における冬期の外国人利用者の観察から、多くの外国人観光客が来樽している様子はこれまででも感じられました。今回、初めて数字で明らかにしました。

また、来樽数の上位を占める、韓国、中国、台湾の月ごとの入込状況をグラフと比較してみると、韓国は2つのピークが均等にあり、台湾は月ごとにばらけているなど、国・地域による特徴もわかってきました。(グラフ3-1~3)



グラフ2

●経済効果や課題の把握

市では、平成28年に外国人観光客1,008名を対象とした観光動態調査『小樽市まちなか観光にぎわい調査業務』を行っています。が、市内における一人当たりの平均消費額は、日帰客が3万4,207円、宿泊客が5万6,098円であった調査結果を公表しています。その数字を今回のモバイル空間統計に掛け合わせると、日帰客が384億7千万円、宿泊客は116億8千万円となり、あわせて501億5千万円という経済効果を算出することができます。(表3)

また、同じ動態調査で、外国人観光客の来樽時の利用交通手段については、鉄道が81.6%、次いでレンタカーが10.3%となっており、この割合をモバイル空間統計に掛け合わせると13万7千人がレンタカーで市内を観光していることとなります。仮に2人で1台の車を使用していると考えた場合、車の数は年間6万8,500台になり、毎日、約190台の外国人観光ドライバーの運転する車が市内を走行している換算になります。

平成30年度  
外国人入込総数 1,332,863人  
501億5千万円  
宿泊実人数 208,164人  
116億8千万円  
日帰り人数 1,124,699人  
384億7千万円

表3

平成30年度 道外観光客に占める訪日外国人観光客の割合 (単位:千人)

| 月   | 道外客     | 日本人     | 外国人     | 外国人割合 |
|-----|---------|---------|---------|-------|
| 4月  | 187.1   | 99.7    | 87.4    | 46.7% |
| 5月  | 209.9   | 117.2   | 92.7    | 44.2% |
| 6月  | 322.4   | 223.9   | 98.5    | 30.6% |
| 7月  | 368.1   | 238.3   | 129.8   | 35.3% |
| 8月  | 406.2   | 280.5   | 125.7   | 30.9% |
| 9月  | 248.9   | 203.8   | 45.1    | 18.1% |
| 10月 | 234.3   | 159.1   | 75.2    | 32.1% |
| 11月 | 220.6   | 139.6   | 81.0    | 36.7% |
| 12月 | 257.2   | 96.7    | 160.5   | 62.4% |
| 1月  | 247.7   | 78.6    | 169.1   | 68.3% |
| 2月  | 240.7   | 71.5    | 169.2   | 70.3% |
| 3月  | 229.1   | 130.5   | 98.6    | 43.0% |
| 計   | 3,172.2 | 1,839.4 | 1,332.8 | 42.0% |

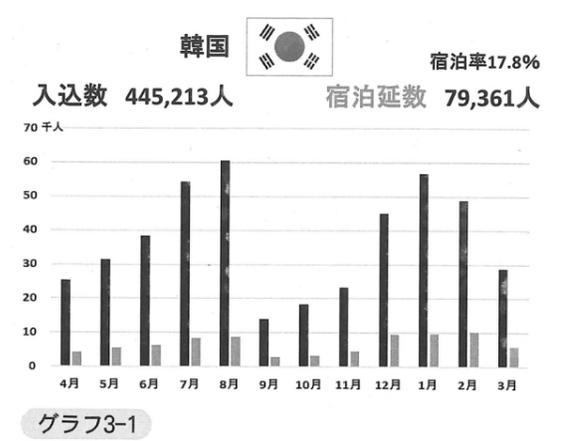
※小樽市観光入込調べから作成

表2

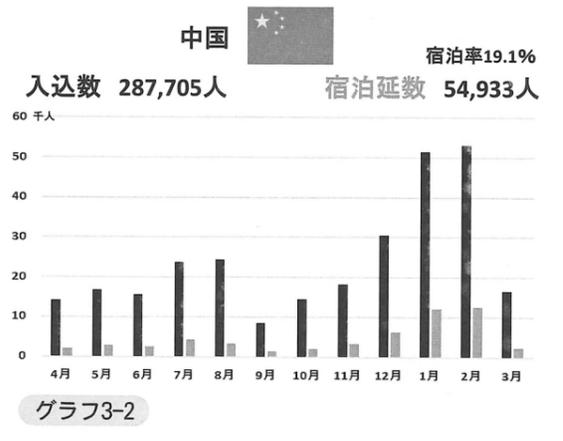
日本の交通ルールに精通していない外国人ドライバーによる事故が全国的に増えているという調査結果が出ていますが、外国人観光ドライバーに対する交通安全対策の重要性が数字としても見えてきました。

今回の調査で得た外国人観光客入込数や国・地域ごとの規模、特徴といった項目は基礎的なデータであり、小樽市をはじめ国や道、各種団体等が行っている多様な調査の結果と合わせて分析・検討することにより、さまざまなことが見えてくると考えられます。

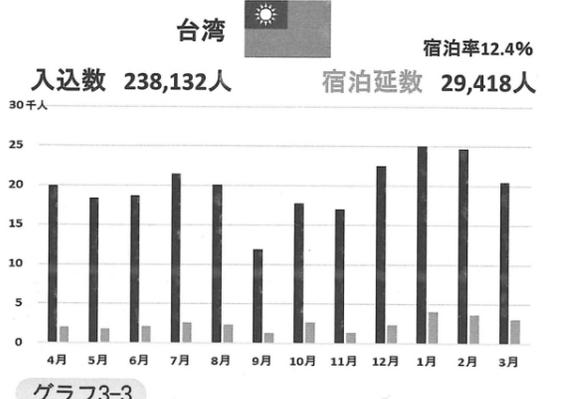
現在、小樽観光協会ではWiFiデータを使って、観光客が市内をどのよう回遊しているかの調査を行っており、その調査結果は、重要な基礎データとして期待されます。



グラフ3-1



グラフ3-2



グラフ3-3

効果的な施策を検討・実施していくために、基礎的なデータの収集・集積と分析は、今後、ますます重要になってくると考えられます。

世界的な旅行者数は、今後も増加していくと言われている中で、国籍を問わず、幅広い人々を引き付けるまちの魅力を増すための各種整備や情報の発信などは、戦略的に進めなければなりません。



(※)モバイル空間統計

携帯電話の電波は、各地に設置されている携帯電話基地局に一定時間間隔で捕捉されており、小樽市域内に2時間以上滞在すると観光客として、夜中の2時から5時までの間に2時間以上滞在すると宿泊者としてそれぞれカウントされる仕組みになっています。

また、使っている外国の通信会社を把握することで、国や地域を特定しています。

